

読むこと 指導のポイント

(その8)

～音読活動の充実②～

(その7) 音読活動の充実①では、音読活動の本来の目的について確認し、【音読活動の基本的な流れ】を提案しました。



- 1 英語の綴りを見て正しく発音できるようにすること
- 2 英文を正しく理解し、
内容にふさわしく音声化能を高めること

(その8) (その9) 音読活動の充実②③では、様々な音読活動を紹介します。

私は、オーバーラッピングを取り入れています。



よく行われる音読活動の一つです。発音、イントネーション、スピード等、模範の音声に合わせようとす

オーバーラッピングとは？

生徒が文字を目で追いながら、教師やCDの音を聞き、その音に合わせて音読する活動です。

るので、発声がより正確になる効果があると言われています。これは、文字を音声化する練習活動なので、【音読活動の基本的な流れ】では、下表のように、自力で文字を音声化するバズリーディングの前に行うのがよいでしょう。

【音読活動の基本的な流れ】

教科書本文の内容を理解させた後

1	モデル提示（全文）	本文の英文全体を聞かせる。（教師またはCDによる）
2	Listen & Repeat	教師またはCDの後に繰り返し音読させる。
3	バズリーディング	生徒個人で音読させる。（会話文であればペアで）
4	ペアで確認	会話文の時は省略させる。
5	数名発表	代表生徒数名に発表させる。

ここで行う

Listen & Repeat と組み合わせたり、Listen & Repeat の代わりに行ったり、各校の実態に応じて、工夫してください。教科書本文の音読活動時に、オーバーラッピングを積極的に取り入れている先生も増えてきています。



最近は、「イチゴ読み」も取り入れています。

【イチゴ読み例】

教師 : town.	There is a market in our town. という文を音読する例
生徒たち : town.	
教師 : our town	
生徒たち : our town	
教師 : in our town	
(途中略)	
教師 : is a market in our town.	
生徒たち : is a market in our town.	
教師 : There is a market in our town.	
生徒たち : There is a market in our town.	

イチゴ読みとは？

イチゴは「一語」を表しています。一語ずつ練習する読み方です。左に例を示します。

例のように後ろから練習する方法と前から練習する方法があります。数多く繰り返させてるので、苦手な生徒にも自信をもって取り組めるという長所はありますが、時間がかかるので、生徒の実態等に応じて工夫して活用するとよいと思います。

- 例)・イチゴ読みは、重要文にしほる。
- ・一語ずつでなく、意味のまとまりごとに練習する。

(There is / a market / in our town.)

これも、文字を音声化する練習活動ですので、自力で音声化するバズリーディングの前に位置付けるのがよいと思われます。単語レベルから音声化する練習が始まるので、Listen & Repeat の前段として行うことも考えられます。



【音読活動の基本的な流れ】

教科書本文の内容を理解させた後

1	モデル提示（全文）	本文の英文全体を聞かせる。(教師またはCDによる)
2	Listen & Repeat	教師またはCDの後に繰り返し音読させる。
3	バズリーディング	生徒個人で音読させる。(会話文であればペアで)
4	ペアで確認	会話文の時は省略させる。
5	数名発表	代表生徒数名に発表させる。

どちらか行う

今回は、二つの音読活動を紹介しましたが、目的等を考えながら取り組ませることが大切です。様々な活動を取り入れ、生徒が意欲的に音読活動に取り組むことをとおし、音読の目標が達成できるよう各校で工夫してください。

また、生徒一人一人が正しく文字を音声化することができるかどうかは、ペーパーテストでは評価することができません。簡単な「音読テスト」などのパフォーマンステストが必要になります。各校で実施方法等を工夫してください。